

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きの日々の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返し行う必要がある。また、文章を読むことに慣れ、目的や意図に応じて、読んだり、話し合ったり、書いたりといった基本的な定着を図る必要がある。 特に、「書くこと」の領域については他の領域と比べ落ち込みが大きく、一層の定着を図る必要がある。
	よくできた問題	漢字の読み問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	ローマ字を読んだり、書いたりする問題の正答率が低く、無解答率も高かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題がある。まずは、長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは、何かを判断する力が必要である。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力が必要である。
	よくできた問題	活動報告文において、課題を取り上げた効果をつめる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら要旨をつめる問題の無解答率が高かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 計算力については、取組の成果が少しずつでいるようである。特に、「量と測定」「数量関係」領域については、一層の定着を図る必要がある。
	よくできた問題	繰り下がりのある減法の計算の問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	三角形の底辺に対する高さを選ぶ問題の正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 図形は苦手であるが、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することはできている。しかし、正三角形に内接する円の半径について理解が不十分であった。 記述式の問題形式で無解答率が高い。問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力が必要である。
	よくできた問題	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述したり、乗法や除法の式の意味を解釈する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定する問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか。」の問いに、97.3%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えている。また、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」の問いに、94.7%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えている。 テレビやビデオ・DVDの視聴時間が県や全国に比べて長い。また、家庭での学習時間の少なさや家庭での学習習慣が身に付いていない児童が多い。これらの結果より、テレビ・ビデオ・DVDの視聴、学習時間などを含めた家庭生活の過ごし方について課題がある。学校だよりや懇談会やPTA理事会等で、よりよい家庭生活に向けて、生活習慣や学習習慣の大切さを啓発する必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 「漢字の書き取り」の習熟を高める取組の実施。
 - ・ 一文字一文字丁寧に書く習慣や正しい筆順が身に付くように薄墨たどり練習をする。
- ◎ ローマ字に親しむ時間を確保する。
 - ・ 朝自習にローマ字を練習する時間を位置付ける。また、掲示物等の表記にローマ字表記を加え、触れる機会を増やす。
- ◎ 資料を基に、自分の考えを整理し、論述する力を高める取組の実施。
 - ・ 理科や社会科での新聞づくりの学習で、論点を明確にして記事にまとめる指導を徹底する。
 - ・ 総合的な学習の時間などで、個人の課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現と言った学習活動の時間を確実に確保し、指導を行う。
- ◎ 目的・意図に応じて「書く」ことに慣れる取組の実施。
 - ・ 学習の終わりに「まとめ(ふり返り)」を書く時間には、視点を設定し、ポイントを絞って書くよう指導を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 家庭に向けてよりよい生活習慣づくりを啓発。
 - ・ 「生活がんばり表」で、起床・就寝時刻、睡眠時間、家庭学習の時間、朝食の有無等の調査し、その結果を使って児童や保護者に啓発を行う。
 - ・ 家庭学習チャレンジハンドブックや「南小倉中学校区家庭学習のすすめ」(28年度2学期発行予定)を使って「家庭学習チャレンジ講座」を開き、家庭学習の指導を行う。
 - ・ 各学級の家庭学習マイスター賞を決め、展示を行い、児童への啓発を行う。優れたものには「家庭学習マイスター賞」へ参加を行う。
 - ・ 家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、携帯電話やスマートホンの適切な使用方法について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組状況について保護者へ周知。
 - ・ 学校だよりや地域の会議等で全国学力・学習状況調査の概要について周知する。